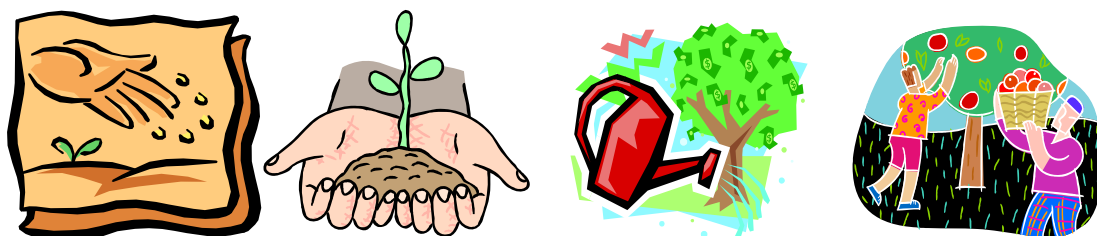


# 相模原市協働事業提案制度 平成21年度実施事業 公開事業報告会 結果



平成22年5月16日

相模原市協働事業審査会

# 目 次

1. 相模原市協働事業提案制度	
公開事業報告会スケジュール	1
2. 公開事業報告会対象事業の概要一覧	2～5
3. 報告会の実施方法等について	6
4. 報告書(ふりかえりシート)の様式	7～10
5. 自己評価の数値及び審査会意見	11～14
・ おもちゃの病院支援事業	11
・ 林地団地化事業	11
・ 境川案内ハンドブックの作成	12
・ 農業資源活用事業	12
・ 地域若者サポートステーション事業	12
・ 市民活動団体支援事業	13
・ 総合的自然体験学習	13
・ 動物ふれあい教育事業	13
・ 学びなおし塾	14
・ 森林再生活用事業	14
・ 市民活動PR事業	14
6. 個別事業に対する報告の概要	15～26
7. 公開報告会の様子	27

# 1. 相模原市協働事業提案制度 公開事業報告会スケジュール

- 1 日 時 平成22年5月16日(日)  
午前9時30時から午後0時30分
- 2 場 所 けやき会館 2階 職員研修所 大研修室
- 3 スケジュール

時 間	内 容
午前 9:15 9:30	開 場 開 会 ＜あいさつ・審査会委員紹介・ 事業報告会進行説明など＞
9:40	事業報告開始※ ＜事業実施団体及び担当課からの事業結果等の説明（5分程度） 及び審査会委員からの質疑（5分程度）＞
11:30	※ おもちゃの病院支援事業ほか10事業 （1事業あたり10分程度） 閉 会
午前 11:40 ～ 午後0:30	公開事業報告会終了後 協働事業審査会を開催（非公開）

	事業の名称	実施主体	平成 22 年度
1	おもちゃの病院支援事業	・相模原おもちゃドクターの会 ・資源循環推進課	継続
2	林地団地化事業	・NPO法人緑のダム北相模 ・相模湖経済観光課(旧相模湖経済環境課)	継続
3	境川案内ハンドブックの作成	・NPO法人境川の斜面緑地を守る会 ・水みどり環境課	
4	農業資源活用事業	・NPO法人文化学習協同ネットワーク ・津久井経済観光課(旧津久井経済課)	継続
5	地域若者サポートステーション事業	・NPO法人文化学習協同ネットワーク ・産業・雇用政策課(旧働く人支援課)	
6	市民活動団体支援事業	・NPO法人相模原エスティアート ・市民協働推進課	
7-1	総合的自然体験学習	・麻布大学ヒトと動物の関係に関する教育 研究センター ・津久井生涯学習センター	
7-2	動物ふれあい教育事業	・麻布大学ヒトと動物の関係に関する教育 研究センター ・学校教育課	継続
8	学びなおし塾	・NPO法人きょういく応援団 ・産業・雇用政策課(旧働く人支援課)	継続
9	森林再生活用事業	・NPO法人ふじの森のがるでんセンター ・藤野経済観光課(旧藤野経済環境課)	
10	市民活動PR事業	・NPO法人ナレッジ・リンク ・市民協働推進課	継続

2. 平成21年度実施事業公開事業報告会 事業概要一覧

(10事業)

No	事業の名称(仮称)	事業の目的・概要
	提案団体の名称	事業担当課
1	おもちゃの病院支援事業 (総:193千円、市:190千円)	<p>○地域の公民館やこどもセンターで活躍するおもちゃドクターを養成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃドクターとして養成することによって、使い捨て文化の見直しを促し、おもちゃの修理の場を通して、こどもたちの「物を大切に作る心」「科学する心」を育てます。</li> </ul> <p>◆主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃドクター養成講座 全3回開催(計26名受講)</li> <li>・受講者に対する実習の場の提供(橋本台リサイクルスクエアなど)</li> <li>・親と子のおもちゃ病院を企画開催</li> <li>・ニュースレターの発行</li> </ul>
	相模原おもちゃドクターの会	○資源循環推進課
2	林地団地化事業 (総:2,500千円、市:1,500千円)	<p>○神奈川の水源、相模湖地域の森林保全を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私有林の団地化を推進することによって、継続的な環境保全を担保する経済性のある森づくりを目指します。</li> </ul> <p>◆主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査事業、点検路の整備</li> <li>・間伐材の有効利用(間伐材を活用した積み木の有効利用):介護施設でのモニタリング</li> <li>・木工教室の開催:10月25日</li> </ul>
	NPO法人緑のダム北相模	○相模湖経済観光課(旧相模湖経済環境課)
3	境川案内ハンドブックの作成 (総:1,158千円、市:1,050千円)	<p>○境川の地史や人の暮らし、動植物、多自然川づくりなどを解説するハンドブックを作成し、環境教育の教材を提供し、沿川住民の啓発を促して境川への関心を深め行政界を越えた流域連携を深める契機とします。</p> <p>◆主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・編集会議 第1回:5月9日(頁配分、掲載する動植物種の選定、執筆分担、年間スケジュール確認) 第2回:9月19日(1次案の手直し等)担当課職員、博物館学芸員との意見調整 第3回:12月6日(紙面の95%完成予定)</li> <li>・ハンドブックの完成と印刷 10,000冊を作成:平成22年3月</li> </ul>
	NPO法人境川の斜面緑地を守る会	○水みどり環境課

\* ( )内 総=総事業費、市=市負担金額

No	事業の名称（仮称）	事業の目的・概要
	提案団体の名称	事業担当課
4	農業資源活用事業 （総：3,534 千円、市：1,000 千円）	<p>○二ト・引きこもりの若者と地域の農業技術者との結びつきにより、若者の自立支援と農業振興による地域活性化を行います。</p> <p>◆主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農作業にあたり管理者として若者を配し、農業技術指導者として地域住民の参加を得た。</li> <li>・里山体験イベントの実施（月1回で全12回、延べ211人が参加）</li> <li>・若者の週末農業体験 若者サポートステーションと連携し実施した。延べ15日、延べ25人が参加</li> <li>・児童のための夏期合宿生活 8月6日～10日</li> <li>・若者のための農業体験合宿の実施 8月17日～30日、9月14日～21日</li> <li>・生産物、加工品の供給</li> </ul>
	NPO法人文化学習協同ネットワーク	○津久井経済観光課(旧津久井経済課)
5	地域若者サポートステーション事業 （総：17,453 千円、市：1,000 千円）	<p>○若者に対する総合支援窓口となる「地域若者サポートステーション」を設置します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校・引きこもり支援、さらに就職支援に対し豊富な経験と実績を持つNPOが若者の総合支援窓口を運営し、幅広く行政と連携し就労支援にとどまらない包括的な若者支援を行います。</li> </ul> <p>◆主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者サポートステーション開所 7月1日オープン（市勤労者総合福祉センター内）</li> <li>・オープンシンポジウムの開催（8月21日）</li> <li>・専門機関等とのネットワークシステムの構築 若者自立支援推進協議会の発足（6月22日）、担当者会議の開催（7月13日、10月22日）</li> </ul>
	NPO法人文化学習協同ネットワーク	○産業・雇用政策課(旧働く人支援課)
6	市民活動団体支援事業 （総：904 千円、市：600 千円）	<p>○市民活動団体の運営基盤を強化するための相談事業やセミナーを開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動団体の自立化を図る趣旨から、行政による直接支援ではなく、NPOの先人、仲間という立場から事業を展開します。</li> </ul> <p>◆主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO相談会の開催（申し込み制） 月2回（第1木曜日、第2土曜日） 延べ20回全60コマを開催、21件の相談に対応した。</li> <li>・市民活力推進フォーラム及び交流会の開催 3月20日 杜のホールはしもとで開催、参加者30名</li> <li>・橋本図書館、市民活動サポートセンター等関係機関との連携</li> </ul>
	NPO法人相模原エスティアート	○市民協働推進課

\*（ ）内 総＝総事業費、市＝市負担金額

No	事業の名称（仮称）	事業の目的・概要
	提案団体の名称	事業担当課
7 (1)	総合的自然体験学習 （総：635千円、市：239千円）	<p>○非日常的な体験（自然の中での宿泊と普段触れることのできない馬の世話や行動）を通して、動物や自然を見る目と興味・関心を高めていきます。</p> <p>・2泊3日の宿泊型の体験学習の場を年2回程度提供します。</p> <p>専門的知識を持った研究スタッフによる動物介在プログラムを提供します。</p> <p>◆主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月28日 応募締め切り</li> <li>・8月 1日 対象者選考</li> <li>・8月16・17日 保護者説明会</li> <li>・8月25日～27日 第1回実施</li> <li>・9月28日・29日 保護者説明会</li> <li>・10月10日～12日 第2回実施</li> <li>・10月20日 アンケート回収・集計</li> </ul>
	麻布大学 ヒトと動物の関係に関する教育研究センター	○津久井生涯学習センター
7 (2)	動物ふれあい教育事業 （総：165千円、市：165千円）	<p>○大学における研究成果を活かし、犬とのふれあいやそれに係わる知識の習得を通じて、子ども同士のつながりや活動者との係わりを深め、子どもたちの心身の健やかな発達や豊かな人間関係を育むなど、教育効果を高めていきます。</p> <p>・専門的知識を持ったスタッフの派遣及び教育プログラムの提供を行います。</p> <p>◆主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月23日、7月7日 緑が丘中学校（特別支援学級）</li> <li>・9月10日 広田小学校（1・3年）</li> <li>・10月6日・9日 若松小学校（1・2年）</li> <li>・11月9・13日 田名北小学校（1年）</li> </ul>
	麻布大学 ヒトと動物の関係に関する教育研究センター	○学校教育課
8	学びなおし塾 （総：3,854千円、市：3,222千円）	<p>○ニート等の若者の就労・自立を支援する長期的講座を開催します。</p> <p>・基礎学力の習得だけではなく、緩やかな社会参加を促すことが必要となることから、NPOの持つ豊富な講師陣を活用し、コミュニケーション能力や表現力などの「社会適応力」をつける機会を提供します。</p> <p>◆主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入塾説明会 4回開催</li> <li>・5月15日 申し込み締め切り</li> <li>・6月～ 月・水・金の午前中に授業を実施</li> <li>・2月 卒塾式、懇親会を開催</li> </ul>
	NPO法人きょういく応援団	○産業・雇用政策課(旧働く人支援課)

\*（ ）内 総＝総事業費、市＝市負担金額

No	事業の名称（仮称）	事業の目的・概要
	提案団体の名称	事業担当課
9	森林再生活用事業 （総：600千円、市：500千円）	<p>○資格・技術を習得して活動を行ってきたNPOスタッフが間伐・枝打ちを行い、藤野地域の景観地、名勝地等の環境整備を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林環境の保全とともに、間伐材を活用した商品開発や地場製品の生産拡大などの検討を行い、コミュニティビジネスの創出にも努めます。</li> </ul> <p>◆主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林資源を活用した自然体験プログラム ログ講習 5月9日・10日 森林体験協力ボランティア 7月20日 （相模原市内高校生）</li> <li>・景観伐採ポイントの検討・間伐実施 7月8・15日・22日</li> <li>・間伐材を活用した体験プログラム 「しいたけ栽培体験の集い」3月14日</li> </ul>
	NPO法人ふじの森のがるでんセンター	○藤野経済観光課(旧藤野経済環境課)
10	市民活動PR事業 ～市民活動推進普及啓発事業～ （総：500千円、市：500千円）	<p>○市民活動をわかりやすく伝える市民活動PRビデオ（DVD）を作成します。（前期2団体、後期2団体の計4番組）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動においても、担い手の高齢化・後継者の不足が課題となっていることから、提案団体の持つ若者支援のネットワークを活かすことにより、若者の社会参加、市民活動参加の促進に努めます。</li> </ul> <p>◆主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動PR映像の製作 8団体の活動を紹介する番組を作成</li> <li>・関係機関等との調整 J-COMとの連携を視野に入れた番組制作についての意見交換、NPO法人湘南メディアネットワークとの意見交換</li> <li>・DVD配布等 市施設での放映（順次）、図書館及び市民協働推進かでの貸し出し、法制大学学生ボランティアセンター、家電量販店での放映</li> </ul>
	NPO法人ナレッジ・リンク	○市民協働推進課

\*（ ）内 総＝総事業費、市＝市負担金額

### 3. 公開事業報告会の実施方法等について

#### (1) 審査主体

相模原市協働事業提案制度に関する要綱第21条の規定により、協働事業審査会委員により公開事業報告会が行われた。

#### (2) 審査会委員

氏名	役職	備考
牛山久仁彦	明治大学政治経済学部 教授 (審査会会長)	出席
瓜生ふみ子	特定非営利活動法人 CCCNET 代表理事	出席
佐藤彰夫	相模原市自治会連合会監事	出席
北條論	東京地方税理士会 専務理事	出席
山本満	株式会社 さがみはら産業創造センター 専務取締役	出席

#### (3) 公開事業報告会の方法等

##### ア. 報告書(ふりかえりシート)の作成

実施団体及び事業担当課に対し、別紙報告書(ふりかえりシート)を送付し、実施団体及び事業担当課双方で話し合い、必要事項を記載の上、あらかじめ事務局である市民協働推進課へ提出していただき、審査会委員へ配布を行った。

報告書は事業の概要、A：パートナーシップの原則、B：取り組みにあたっての関係性のふりかえり、C：事業の妥当性と効果、D：協働したことの効果の4つの区分にわたり20の設問を用意し、a・b・c・dの4段階の中から該当する意識項目にチェックを入れてもらう形態とした。

##### イ. 報告書(ふりかえりシート)のねらい

事業報告会のねらいは、協働事業の成果、協働の成果、課題を報告し、事業及び協働事業提案制度全体の評価検証を図るため、実施団体及び事業担当課双方の合意で自己評価を行う形式とした。

##### ウ. 評価の数値化

提出された調書の4段階の自己評価チェックを、a=4点、b=3点、c=2点、d=1点と置き換え、合計点を80点とした。

なお、報告書に掲載したそれぞれの評価は、審査会委員のみの資料として公開報告会を実施した。

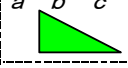
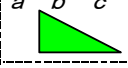
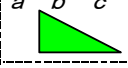
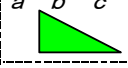
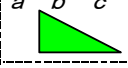
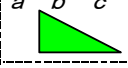
##### エ. 報告会の方法

個別の提案に対する質疑応答は、審査会会長が進行役となって行った。1事業あたりの、事業の概要説明及び質疑応答は10分とし、はじめの5分で実施団体が事業の取り組み状況についての説明及び事業担当課による補足説明が行われ、後の5分で、審査会委員の質問に回答する形で行われた。

##### オ. 審査会意見のとりまとめ

報告会では、協働事業の成果や課題の報告をし、事業及び制度の評価と検証を行うとしていることから、終了後審査会を開き、意見の取りまとめが行われた。

4. 報告書(ふりかえりシート)の様式

平成20年度採択：平成21年度実施事業 事業報告書 (様式)																		
<b>協働事業提案制度事業のふりかえりシート</b>																		
整理番号																		
事業の名称																		
団体の名称																		
事業担当課																		
事業の概要																		
具体的な取組みの状況																		
役割分担	実施団体の主な役割 <input type="checkbox"/> <hr style="border-top: 1px dotted black;"/> 市の主な役割 <input type="checkbox"/>																	
当初予算額	円																	
決算額	円																	
負担の状況	実施団体 円 : 市 円																	
<p>* 事業報告書の記入方法等について（個別に指定をしたところ以外は双方で協議の上記入してください。）</p> <p>① A～Dの各設問項目（20項目）は、次のa～dの該当する□にチェック（レ印）をお付けください。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">a ⇒ 肯定する</td> <td style="width: 30%;">(はい) (おおいに思う)</td> <td rowspan="4" style="width: 30%; text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> <table style="border: none;"> <tr> <td style="border: none;">a</td> <td style="border: none;">b</td> <td style="border: none;">c</td> <td style="border: none;">d</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">  </td> </tr> </table> </div> </td> </tr> <tr> <td>b ⇒ どちらかと言えば肯定する</td> <td>(どちらかと言えば思う)</td> </tr> <tr> <td>c ⇒ どちらかと言えば否定する</td> <td>(どちらかと言えば思わない)</td> </tr> <tr> <td>d ⇒ 否定する</td> <td>(いいえ) (思わない)</td> </tr> </table> <p>② 自由意見欄には、各ブロックの設問項目に関連し、良かったことや想定外だったこと、ご回答の理由などの補足事項がありましたら自由にお書きください。  <u>F～Hについては、実施団体、事業担当課、それぞれで記載してください。</u>  <u>※なるべく簡潔にお書きください。</u></p> <p>③ 自己評価の指標                  A：80%以上できた    B：60%以上できた    C：十分にできなかった</p> <p>④ 取組みの様子が分る写真がございましたら、I欄にお貼りください。その際は、どのような場面の写真かわかるように、紹介コメントを記載してください。  <u>※また、添付いただく写真につきましては、報告書の公開等にあたり、当方で使用することについてご了解くださるとともに肖像権等についてもご留意くださるようお願いいたします。</u></p>		a ⇒ 肯定する	(はい) (おおいに思う)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> <table style="border: none;"> <tr> <td style="border: none;">a</td> <td style="border: none;">b</td> <td style="border: none;">c</td> <td style="border: none;">d</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">  </td> </tr> </table> </div>	a	b	c	d					b ⇒ どちらかと言えば肯定する	(どちらかと言えば思う)	c ⇒ どちらかと言えば否定する	(どちらかと言えば思わない)	d ⇒ 否定する	(いいえ) (思わない)
a ⇒ 肯定する	(はい) (おおいに思う)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> <table style="border: none;"> <tr> <td style="border: none;">a</td> <td style="border: none;">b</td> <td style="border: none;">c</td> <td style="border: none;">d</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">  </td> </tr> </table> </div>	a		b	c	d											
a	b		c		d													
																		
b ⇒ どちらかと言えば肯定する	(どちらかと言えば思う)																	
c ⇒ どちらかと言えば否定する	(どちらかと言えば思わない)																	
d ⇒ 否定する	(いいえ) (思わない)																	

事業の名称					
次のA～Dの20項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。					
A：パートナーシップの原則・・・ パートナーシップの原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
1	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
2	対等の原則：対等な立場で事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
3	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
4	役割合意の原則：双方の役割を理解し、効果的に事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
5	目標共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目標を共有して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
6	公開の原則：取組みの状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたと思いますか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項がありましたらお書きください。)	自己評価			
B：取組みに当たっての関係性のふりかえり・・・ お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
7	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができたと思いますか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
8	事業の取組みに当たって、前向きに意見を述べ合うことができたと思いますか。	a	b	c	d
9	負担感を持つことなく、協働することができたと思いますか。	a	b	c	d
10	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができたと思いますか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項がありましたらお書きください。)	自己評価			
C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
11	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだったと思いますか。(事業の必要性)	a	b	c	d
12	設定した目標(目的)を達成することができたと思いますか。(目標達成度)	a	b	c	d
13	事業に要した経費は適切なものだったと思いますか。(費用対効果)	a	b	c	d
14	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたと思いますか。(市民満足度)	a	b	c	d
15	さらなる発展が期待できる事業だと思いますか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項がありましたらお書きください。)	自己評価			

D : 協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
16	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。 (協働の必要性)	a <input type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
17	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。 (役割分担の妥当性)	a <input type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。 (相乗効果)	a <input type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
19	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。 (他団体や地域社会など外部への波及効果)	a <input type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
20	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。 (市民力・自治力の向上)	a <input type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項がありましたらお書きください。)	自己評価			
E : 21 協働のポイントー1 こんなところが良かった!と思ったことがあればお書きください。					
実施団体記載欄			事業担当課記載欄		
F : 22 協働のポイントー2 ここは改善したい!と思ったことがあればお書きください。					
実施団体記載欄			事業担当課記載欄		
G : 23 協働のポイントー3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!					
実施団体記載欄			事業担当課記載欄		
H : 24 その他(自由意見)					
実施団体記載欄			事業担当課記載欄		

I : 25 取組みの様子 (写真とコメント)

写真添付欄	コメント記載欄
写真	
写真	
写真	
写真	

## 5. 自己評価の数値及び審査会意見

### 平成21年度実施協働事業(全体)について

#### 【審査会意見】

- ◆事業によって、実施団体と行政担当課の関係に差があると思われる。特に行政としての協働の意識づくりや、共通の認識づくりについて対応が必要である。
- ◆公開事業報告会については、参加者からの質疑応答や意見交換の時間を設けることを考慮したい。

#### 事業の名称 1 おもちゃの病院支援事業

※ 自己評価及 (a = 4、b = 3、c = 2、d = 1) 満点80点

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
点数	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4	3	4	4	4	4	3	3	76

#### 【審査会意見】

- ◆審査会での評価において、特に課題とする意見はありませんでした。  
次のような意見がありました。
- 資源を大切にす市民の意識向上に効果をあげている。
- 事業に何度も参加する市民(リピーター)を増やす取り組みがあると成果も更に上がるものとなる。

#### 事業の名称 2 林地団地化事業

※ 自己評価 (a = 4、b = 3、c = 2、d = 1) 満点80点

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
点数	3	3	3	3	3	4	2	3	3	3	4	3	4	3	4	4	3	3	3	2	63

#### 【審査会意見】

- ◆ 審査会での評価において、特に課題とする意見はありませんでした。  
次のような意見がありました。
- 山林の荒廃という課題に対し、実施団体と事業担当課が同じ目標のもと、必要な事業を実施している感がある。

事業の名称	3 境川案内ハンドブックの作成
-------	-----------------

※ 自己評価 (a = 4、b = 3、c = 2、d = 1) 満点80点

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計	
点数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	80

【審査会意見】

- ◆ 審査会での評価において特に課題とする意見はありませんでした。  
次のような意見がありました。
- 広く公共に資する活動となっている。
- PR活動も行政とうまく役割分担がとれており適切である。

事業の名称	4 農業資源活用事業
-------	------------

※ 自己評価 (a = 4、b = 3、c = 2、d = 1) 満点80点

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
点数	4	4	4	3	3	2	3	4	4	4	4	3	4	3	4	4	4	3	3	2	69

【審査会意見】

- ・ 審査会での評価において特に課題とする意見はありませんでした。

事業の名称	5 地域若者サポートステーション事業
-------	--------------------

※ 自己評価 (a = 4、b = 3、c = 2、d = 1) 満点80点

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
点数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	80

【審査会意見】

- ・ 審査会での評価において特に課題とする意見はありませんでした。

<b>事業の名称</b>	<b>6 市民活動団体支援事業</b>
--------------	---------------------

※ 自己評価（a = 4、b = 3、c = 2、d = 1） 満点80点

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
点数	4	4	4	4	4	2	4	4	4	4	4	4	2	3	4	4	4	3	3	2	71

**【審査会意見】**

- ・ 審査会での評価において特に課題とする意見はありませんでした。

次のような意見がありました。

- 事業の有効性として、中間支援を行うNPOの役割とその効果の大きさが実証されたものである。
- PR面で行政との役割分担が適切であった。

<b>事業の名称</b>	<b>7-1 総合自然体験学習</b>
--------------	---------------------

※ 自己評価（a = 4、b = 3、c = 2、d = 1） 満点80点

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
市民	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	79

**【審査会意見】**

- ・ 審査会での評価において特に課題とする意見はありませんでした。

<b>事業の名称</b>	<b>7-2 動物ふれあい教育事業</b>
--------------	-----------------------

※ 自己評価（a = 4、b = 3、c = 2、d = 1） 満点80点

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
市民	3	3	3	3	3	1	2	3	3	3	3	3	2	3	4	3	3	3	3	3	57

**【審査会意見】**

- ・ 審査会での評価において特に課題とする意見はありませんでした。

次のような意見がありました

- 教育に事業については、行政担当課とともに小・中学校での協働に対する理解が必要である。協働に対するコンセンサスが学校教育全体として今後進展することを期待する。

事業の名称	8 学びなおし塾																			
-------	----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 自己評価 (a = 4、b = 3、c = 2、d = 1) 満点 80 点

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
市民	3	3	3	3	3	1	2	2	3	3	3	3	2	3	4	4	4	3	3	2	57

【審査会意見】

- ◆ 人件費等の費用対効果を見ると早急に対策を考え、多くの参加者が得られるよう努力をしていただきたい。また、協働している行政担当課の業務をいかし若者サポートステーション等支援機関とも連携を深めることができるよう行政と実施団体との協議を進めてほしい。

事業の名称	9 森林再生活用事業																			
-------	------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 自己評価 (a = 4、b = 3、c = 2、d = 1) 満点 80 点

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
点数	3	3	3	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	75

【審査会の主な意見】

- ◆ 審査会の場面で、事業実施状況について特に課題とする意見はありませんでした。

事業の名称	10 市民活動PR事業																			
-------	-------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 自己評価 (a = 4、b = 3、c = 2、d = 1) 満点 80 点

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
市民	3	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	3	4	4	3	4	4	4	4	76

【審査会意見】

- ◆ 行政のみの負担額で事業を実施しているという点で、事業委託との違いが問われる。協働事業としての成果や効果を継続して実施することで出していきたい。

## 6. 事業報告の概要

No	事業の名称	実施者
1	おもちゃの病院「さがみはら」運営事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相模原おもちゃドクターの会</li> <li>・資源循環推進課</li> </ul>
<p><b>概要説明（実施団体）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドクター養成講座は全3回（1、2回目は橋本リサイクルセンター、3回目は城山保健福祉センター）開催し、41名応募、うち31名受講した。</li> <li>・ 現在30名のドクターが活躍している。</li> <li>・ 新規の「おもちゃ病院」の開設は2か所あり、14か所となった。22年度4月には新たに2か所増え、16か所で開催される。</li> <li>・ その他の活動として、市民活動サポートセンター主催のパネル展示への参加、のぼり旗、リーフレットの制作、配布を行った。</li> <li>・ この事業の成果として、おもちゃの修理取扱件数が500件を越えた。</li> <li>・</li> </ul> <p><b>補足説明（事業担当課）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成18年度から橋本リサイクルスクエアで、月に1度（第1日曜日）おもちゃの病院を開設いただいた経過がある。</li> <li>・ 21年度はおもちゃドクターの養成をあわせて実施することとなった。養成講座を実施した結果、ドクターの数がほぼ倍になった。</li> <li>・ 担当課としても大変効果があったと考える。家庭内のゴミの減量化を市民の方と協働で取り組めるところに魅力を感じている。</li> </ul> <p><b>質疑応答（○：審査会委員、□：実施者、■：事業担当課）</b></p> <p>○おもちゃドクター養成講座を受けた後、一人前になるまでの期間は。</p> <p>□養成講座に新しく応募いただいた人の大多数は経験や興味がある人である ただし、同じようなおもちゃでも中を開けると全然違いますので、3～4年の練習が必要だと思う。</p> <p>○おもちゃの病院で修理を頼んだ人で、一度利用した人がリピーターになる状況はあるか？</p> <p>□詳しいデータはとっていないが、どちらかというとも初めの方が多い。</p> <p>○報告書(ふりかえりシート)に「市民提案より行政提案の方がスムーズに事業が立ち上がる内容があるのではないか」と書いているが、この部分のご説明をいただきたい。</p> <p>□例えば、おもちゃ病院では市民の皆さんから持ってきていただいたものを直しているが、先のことを考えると、もう少し前向きに、各ご家庭の倉庫に眠っているもの、捨てられそうなおもちゃを集める方法を考え、直せるものは直し、直せないものは中の部品を役立てるということが、第2のステップになると思う。それをやるためには場所や設備の問題と関連する。その意味で行政の力がさらに必要という意味である。</p>		

No	事業の名称	実施者
2	林団地化事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NPO法人緑のダム北相模</li> <li>・ 相模湖経済観光課 (旧相模湖経済環境課)</li> </ul>

**概要説明（実施団体）**

- ・ 小さな林地を持っている地権者の区画をまとめる事で、効率的に作業を推し進めていくことを事業の目的としている。
- ・ 主な作業内容としては、4月～9月は植生調査、生態系調査、土壌調査、水量調査を実施し、10月～3月は、木の成長が止まっているので、間伐や、枝打ちを行った。
- ・ 年の費用としては市から150万円と自費で100万円の計250万円で実施した。
- ・ 活動はメディアでも取り上げられ、森林もきれいになってきている。
- ・ 新しい取り組みで更なる森林ビジョンも考えていく準備もしている。

**補足説明（事業担当課）**

- ・ 森林は放置されたままだと、水源地としての保水性の低下や土壌荒廃につながる。このような課題を解決する取り組みとして、この事業は行政としても必要であり、効果がある。

**質疑応答（○：審査会委員、□：実施者、■：事業担当課）**

- この事業は継続事業でなっているが、来年はどのようなことをするのか。
- 今年進めた基礎調査をもとに林業としての財政面をどのように引き出すことができるか、生産性をどう考えるかを検討しながら進めていきたい。
- 報告書(ふりかえりシート)に事業担当課が「事業の進み具合に応じて連絡や、相談をしてほしい。事が済んでしまったあとではお互いに対応に苦慮することになる」と記述しているが、その辺の途中経過、コミュニケーションは十分に図られていると行政の方も考えているのか？
- 若干の意見の相違はあるように思う。今後コミュニケーションをとりながら、お互いの足並みを揃えて事業を推進していきたい。

No	事業の名称	実施者
3	境川案内ハンドブックの作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人境川の斜面緑地を守る会</li> <li>・水みどり環境課</li> </ul>

**概要説明（実施団体）**

- ・ 「境川流域ガイド」が予定通り3月末で完成した。
- ・ 市民の中からも大きな反響をいただいた。当初計画していた5000部を10,000部にして印刷したが、今の時点でその6、7割が配布済みである。
- ・ この先どうにかして増刷できないかと考えている。
- ・ この反響を見て、境川はあまり注目されていない川と思われたが、市民の日常生活のレベルにおいては、多くの市民が、かなり高く意識を持っていることがわかった。
- ・ 行政側（都市計画課、市立図書館、企画政策課など）からも反響があった。
- ・ 様々な領域で必要とされ、またかなり活用され、嬉しく思う。
- ・ 作成にあたって、協力してくださった方々に心から感謝している。

**補足説明（事業担当課）**

- ・ PRの方法は4月12日に報道機関へ情報提供するとともにハンドブックを配布した。その後、タウンニュース、ショッパー等、地域情報誌に掲載がされ、それについてのお問合せが数十件あった。
- ・ 市内の配布場所は、水みどり環境課、博物館、各区の行政資料コーナー等で広く配布している。
- ・ 近隣地域でいうと町田市、大和市の協力いただいた行政関連課に配布した。部数としては町田市に500部、大和市で200部程度となった。
- ・ 増刷については、予算の関係上は難しい状況であるが、来年度以降調整をしていこうと考えている。
- ・ その他に、流域の小中学校の環境学習に活用していただくための配布を考えている。
- ・ 事業を進めるうえで、事業担当課の職務の時間中のみを実施団体と連絡するのは厳しいこともあり、情報の共有を主にメールのやり取りでさせていただいた。パートナーとして協働事業をやるには、情報の共有がとても大切であると実感した。

**質疑応答（○：審査会委員、□：実施者、■：事業担当課）**

- 当初の計画では5,000部ということだったのですが、10,000部に増刷された分の予算はどのようにされたのでしょうか？
- 印刷業者に出す時点で再度見積をとった時に前回よりも紙代が下がっていたこと、市の分担金10万円のうち事務費が余っていた部分を印刷にまわすことに了解をいただいた。この2つと、会からの自費で11万円出す事で可能となった。
- 報告書(ふりかえりシート)に「町田市と資金を出しあって増版できれば」ということがあるが、これについては何か進んでいることなのか？それとも全く白紙の物なのか？
- これからということになる。今回町田市の公園緑地課を通して500部程度を配布していただいたが、町田市としても予算化することが難しいということがあり、今後詰めていきたい。
- 団体に入る冊子への問合せは、7～8割が町田市の方からである。町田市民の方から「いただけるのですか？」という問いに、町田市と最初から組んでやっていたら負担にならない。また、町田市へ直接電話が入るなど、ご迷惑をかけることになっている。今後の増版については、はじめから折半で予算を組んで、一緒に納得していけるのが良いのではないかと考えている。

No	事業の名称	実施者
4	農業支援活用事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人文化学習協同ネットワーク</li> <li>・津久井経済観光課 (旧津久井経済課)</li> </ul>

**概要説明（実施団体）**

- ・ 事業の目的としては、津久井のニローネ地域の里山の遊休地に若者が入ることで、緑地に変えていく事業、それとともに若者自身の活性化の場の提供をするということである。
- ・ 若者のほか、今年度は地元の人々の支援を、延べ500時間、120人の地元の農業従事者の方にいただいた。
- ・ 毎月、様々な農業イベントを実施する中で、延べ211人が参加している。
- ・ 若者サポートステーションとの連携について、仕事体験プログラムを同ステーションを利用する若者を対象に週末に労働体験の場として提供した。15日間実施したが、25人が参加した。
- ・ その他、同じような就労支援を行っている団体の若者の長期合宿体験会等も行った。
- ・ 生産者の農産物の供給としては、基本的には、この地域にはブルーベリーがたくさん栽培されており、今が収穫期となっておりますので、それを利用してジャムを作り、加工品として提供するという活動をしている。
- ・ 本事業は継続事業としてお願いしている。昨年度は農業生産法人を誘致して、そこに若者が入って、遊休地を緑地に変える事業を展開してくれた。本年度は2年目ですので彼らとも協力し、よりよい農業事業としての体裁を整えていきたいと考えている。
- ・ 今後、相模原市民の方々の参加を受け入れていながら、よりサポートステーションとの連携も深めていきたいと思っている。(オープンカフェを作りそこに生産物を置く等)

**補足説明（事業担当課）**

- ・ この地区については従来酪農が盛んな土地であった。近年の高齢化等により酪農の撤退が危惧され酪農地の休耕化が懸念されているときに若者達に返農をしていただくことで、休耕化を防ぐことにつながった。
- ・ 若者達のなかに新たな農業の担い手が出現することを期待したい。
- ・ 1年目ということでイベントを中心に協力をさせていただいたが、今後もNPOの方々と協議したうえで行政としての目標の達成に向けて話し合いをしていきたい。

**質疑応答（○：審査会委員、□：実施者、■：事業担当課）**

○ニートの若者に限定されていると思うが、若者達に声をかける方法はどのようにしているか？  
□橋本のサポートステーションに相談に来られた方のなかで、希望者を導入したのが基本である。その他広報を見てきた方もいるし、直接情報を聞いて声を掛けてくださった方もいる。

○実質的にどのくらいの人数が参加しているか。  
□複数回の方もいるし、一度だけの方もいる。延べ人数が211人になっており、実質約50～60人が参加している。

○その中で担い手になれるような人はいるのか。  
□農業の担い手となるとなかなか難しいと思うが、農業を通して若者が元気になる事の方が大事と考え、プログラムを提供している。  
□地元でももう少し本格的な農業事業が展開されれば、そこにおそらく研修生という形で加わっていいと思うが、今はまだ体験的・教育的農業の域を出ていないと言って良いと思う。

No	事業の名称	実施者
5	地域若者サポートステーション事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人文化学習協同ネットワーク</li> <li>・産業・雇用政策課 (旧働く人支援課)</li> </ul>

**概要説明（実施団体）**

- ・ 相談窓口ということで、本来は様々な支援機関（医療、教育、雇用）に相談しながら、若者をつなげていくというのが本来の事業である。ただし、地元支援機関との連携ということになると、これからの課題である。主に相談・支援ということで対応しているというのが現状である。
- ・ 昨年7月にオープンし、それ以降3月末までに登録して、相談にいらした方が197名。延べ（1回のみ、複数回あわせて）500名弱の方が利用している。
- ・ 保護者、引率の教師、家族等をセミナーという形で広げて参加した方の数は約半年で1,537名であった。
- ・ まだまだ私どもの当初予定していた人数より少なく、必要な方にサービスが行き届いていないと現状を認識しており、課題だと思っている。
- ・ この事業は行政とも始めからきちんと協働の形を作っており、非常に細かい日常的な連携をしながら進めてきた。
- ・ 支援の幅が20～30代後半までに及んでいる状況から、もっと若年者への支援も広げていくということが、国からの方針にもなっており（高校中退者も含め、高校との連携を深める、訪問にも行くという事業を始める）。
- ・ また、国からの認定を受けたので、ニローネの古民家を使ったショートステイ（家を少し出してみるというきっかけにする）という取り組みも今年から始まる。さらに、生活保護世帯の若者・子供たちの支援というのも予定される。

**補足説明（事業担当課）**

- ・ 実施団体の説明にもあったが、今後高校中退者の方に対して手を差し伸べるような事業の展開や、サポートステーションの方に来所された方々の今後の居場所の中から就労に結び付ける事業展開をしていきたい。

**質疑応答（○：審査会委員、□：実施者、■：事業担当課）**

○説明の中で、今後も継続していかなければならないというような意味合いに取れましたが、協働事業として継続しないとなっています。その辺の違いはどうなっているのでしょうか？

□本事業は今後、国（厚生労働省）の施策として展開されることとなるが、国の事業としても行政との連携というのは、実施条件である。本事業において協働事業として参加させていただいたおかげで行政との連携も（全国で100か所ほどの事業所があるが）高く評価を得ており、協働事業を離れたとしても、関係を継続していきたいという思いである。

No	事業の名称	実施者
6	市民活動団体の自立した組織化を支援する事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人相模原エスティート</li> <li>・市民協働推進課</li> </ul>

**概要説明（実施団体）**

(1) 相談事業について

- ・ 通年にわたって相談事業を電話相談も含めて個別相談という形で行った。件数は27件あり、うちキャンセルが6件であった
- ・ 利用者の8割が男性で、50～60代の割合が非常に高くなっていた。
- ・ 相談者の特徴としては
  - ①これから始める入り口の方
  - ②今まで活動をしているが法人化をしていきたいという相談
  - ③50～60代男性の第二の人生の収入源としてNPOを考えている

(2) フォーラム及び交流会の開催について

- ・ 3月20日に市民協働の可能性を探るというテーマでフォーラムを開催した。
- ・ 定員が100名に対して集客数は50名でしたが出席者の反応が今現在も私どもの方に来ている状態である。

(3) 橋本図書館のビジネスカウンセリング、サポートセンターとの連携について

- ・ ビジネスカウンセリングの方が、頻度が高く開催されており、こちらに来られた方には必ずサポートセンターを紹介させていただいている。

(4) NPO学習会について

- ・ 8、9、10月にNPOに関する運営、設立、経理、財務といったようなことをテーマに3回にわたって開催した。
- ・ この後、この成果がさがみはら市民活動サポートセンターへのNPO相談会に今年度繋がっており引き続き私どもの団体が相談員として協力させていただく予定となっている

**補足説明（事業担当課）**

- ・ 行政側としては、NPO活動、市民活動をどのように支援をしていくかというところが課題である。
- ・ 特に公共的な課題に対応して色々な活動するNPOや市民団体が増えていくなかで、なかなか活動の場がない、どのように活動を組織化したら良いか、というような活動上の問題があると認識している。
- ・ 今回事業は、支援の方法、どのような学習機会を提供したらいいか、もしくはどのような事業をしたらいいかということについて、パイロット的な事業をやっていた。
- ・ この活動は単年度事業で終了であるが、このプログラムをさがみはら市民活動サポートセンターで引継いで継続していく、人的な支援をさせていただくことになっている。
- ・ パイロット的な事業が、実際に市民活動サポートセンターの活動でいかされていくことで、効果が高い事業となったと思う。

**質疑応答（○：審査会委員、□：実施者、■：事業担当課）**

○コメントの記載欄に「来場者は相模原市の市民力のバロメーターかもしれない」と書かれているが、集客数が5割である事を結びつければ、市民力が弱いのかなと感じるが、どういう形が市民力の向上に結びつくのか？

□バロメーターというのは、けて市民として興味がないというわけではなく、これからどのようにして市民の方に支援をしていくかということが必要だと感じた。

市民活動団体等について沢山の疑問を感じておられる方がいると思うが、まだどこに手をあげればいいかわからないような方も多いと思う。4年以上になるビジネスカウンセリングについても、今年度は初年度の5倍となっており、今も4、5、6月の予約もいっぱい状態となった。市も私どもも、このような場所があることを様々なところでアナウンスしてきた結果であると思う。こういった事業では一過性のアナウンスではなく、お互いが常にアナウンスをしていくことが必要である。政令指定都市になり、NPOの設立届が市でできるようになったので、より一層NPO・市民活動というものを市民の方に感じていただける気運ができたのではないかと感じる。単発ではなく地道に長く、事業とアナウンスをやっていくことが重要だと思う。

No	事業の名称	実施者
7-1	総合自然体験学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・麻布大学 ヒトと動物の関係に関する教育研究センター</li> <li>・津久井生涯学習センター</li> </ul>

**概要説明（実施団体）**

- ・ この活動の効果としては、動物がもつ人の健康への影響、平たく言えばアニマルセラピーというものである。
- ・ 活動にあたっては、動物をより知っていただく機会を設けて多くの方々に実感していただく、また、大学の機関として研究成果を還元する、さらには地域資源を活用していく等を視野に入れて実施している。
- ・ 実質的には8月、10月の2回、2泊3日で子供達向けのキャンプを実施した。馬というファクターはもちろんですが、津久井地域の豊かな自然環境は外で遊ぶ機会の少ない子供達に対して、大きな経験を与えてくれるものではないかと思う。
- ・ 具体的な内容としては、馬に乗る事をご褒美として自分でやるべきことを見つけ、頑張るというプログラムにした。
- ・ 全体的には協働事業によって参加者の負担をおさえ、満足度が高く、インパクトがあった事業が実施できたと思う。
- ・ 課題としては、更なる地域の連携、資源活用による地域活性、障害を持った方々への機会提供などがある。
- ・ こういったことを実現するために他の団体との協力の必要性を感じている。こうした事業には特殊なものを使うため、どうしても費用がかさむ。費用の負担を抑え、高い効果が得られるよう、私どもの活動に賛同してくれる方に、動物が与えてくれる影響を周知できればいいかと思う。

**質疑応答（○：審査会委員、□：実施者、■：事業担当課）**

- 大勢の方の申し込みがあったとのことですが、一つは40名に絞り込む際の選考基準について、もう一つは協力を考えていきたい他団体とはどういった団体か、以上の2点についてお聞きしたい。
- まず、選考基準については、小学生を対象としたので1～6年生、男女比がまんべんなく入るように選考した。他団体との協力ですが、障害者の受け入れがどうしても難しかったものだから、障害福祉のサポート団体等との連携をとって地域活性をおこなってほしいと思っている。
- 行政の方は協働ではなく一本立ちできるとの判断のようですが、今のお話を聞いていると参加費の負担を含めて、協働事業だから有効であるという話があったが「協働事業としてやる、やらない」の感想をお聞きしたい。
- こういった事業をやりますと、非常に参加者負担が増えてしまう。初年度は助成がなかったので4～5万円になってしまうという部分がどうしてもあった。協働事業でなくても、地域の方々の協力を得、広報等で行政と協力得るなどして今後もやらせていただけるという事だったので持続していけるのではないかと考えている。参加者負担につきましても「多少高くても来たい」とおっしゃってくださる方もいる。こちらも参加費用を下げた方に参加していただきたいというジレンマはある。

No	事業の名称	実施者
7-2	動物ふれあい教育事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・麻布大学 ヒトと動物の関係に関する教育研究センター</li> <li>・学校教育課</li> </ul>

**概要説明（実施団体）**

- ・今回協働事業として大学の特色、動物側の特色を生かし、学校教育の支援するものとなった。
- ・子ども達の健やかな発達、人間関係という部分で動物との関わり良さというものを引き出すことも目的に授業を進めた。
- ・全部で4つの学校、年間4回にわたって実施した。クラスとしては、13クラスとなった。
- ・ほとんどのクラスに専門的な研修を受けたスタッフ10名前後、専門のトレーニングを受けた犬が参加した。
- ・教科としては生活、道徳、総合学習などで実施した。
- ・プログラムの組み立ては担任の先生と話し合いをしながら行い、打ち合わせについても場所の設定等念入りに行った。
- ・実際のプログラムは、犬の体に耳をあて、温かさ、音を感じてもらうほか、その学校のニーズによって犬に触れたことのない子供がいる場合、世話の様子を体験させたり、見せたりした。また普段では見られないような体温測定の実施や、子供の発達過程にあわせて資料を作成して伝えていくような取り組みを行った。
- ・また実際に子どもたちと、ただの触れ合いではなく、何か行動を教えるというようなプログラムも提供した。
- ・実施後、子どもたちからたくさんの感謝のお便り等をいただいた。結果、子どもたちが色々な気持ちを感じ取ってくれたことがわかった。
- ・今後、大学同士の共同研究という形で、打合せの導入のマニュアルの作成やスタッフの強化も進めていきたいと思っている。

**補足説明（事業担当課）**

- ・これまで学校教育課と大学の連携というと、学生ボランティアであるとか、インターシップ、大学の先生が学校に来ていただいて研究等に関わっていただくという人的財産、資源の活用ということが中心であった。今回この事業では大学が持っている研究財産を学校教育の中に事業化し、活用できる可能性が図れたことが大変大きな成果だったと考える。
- ・学校教育では、現在、直接体験が重要とされているが、実際の動物とのふれあいというと、学校の中で動物を飼育するのが難しい環境になっている。そういう意味では、市内にある麻布大学の研究センターが事業を実施していただいたことで子ども達の中で直接動物に触れ合う事ができたこと、命の温もりであるとか、命を実感することができたということが変大きな成果であると考えます。
- ・教員にとっても、動物とのふれあいにおける教育的効果等様々なことを、学ぶ事ができ、今後益々事業を展開するうえでは良いことではないかと思う。

**質疑応答（○：審査会委員、□：実施者、■：事業担当課）**

- ふりかえりシートを見ると、「学校側とすれば、協働事業であることの周知が薄いという印象だった」、担当課の意見として「教育計画、教育課程にどのように位置付けるとよいか支援したい」とあり、最後の自由意見で事業課が「学校の先生を揺り動かす刺激を与えてください」という表現がある。協働で一緒にやろうとしているときに事業担当課が後ろむきの感がある意見を書いているように思えるが、どうか。
- 実際、学校教育課が行っている様々な事業に対する学校側の受け取り方として、今回の事業が市民協働推進事業制度で行っているという周知については、足りなかったと考えている。また、活動対象のなる学校において、この事業自体を教育活動の狙いの中に則してものにしなければならぬし、教科、教育課程の中に落さねばならないという問題がある。そういう部分では学校教育課が専門なので学校の方にはもっとアプローチをしなければいけないし、実際に打合せの中では麻布大学とも連携をもっととらなくてはいけないと思う。これはまた来年度への課題と認識している。
- 他の団体との相対的な問題もあるが、評価が比較的厳しく感じる。どうか？
- まだ一年目であり、この先の発展も見越して、厳しくなっていると思う。

No	事業の名称	実施者
8	学びなおし塾	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人きょういく応援団</li> <li>・産業・雇用政策課 (旧働く人支援課)</li> </ul>

**概要説明（実施団体）**

- ・中間報告会で大体の活動の様子については説明したので、その後の事と全体を通しての協働事業ということに関しての感想をお話したい。
- ・参加人数が少数となり、ある意味目標は達成できなかったが、2月の卒塾式で5名の生徒が卒業した。
- ・卒業生のパターンとしておおむね2つがみられた。
  - ①ある程度年齢がいておりある程度の学力は備わっているけれども、なかなかその後の一歩が踏み出せない生徒、②小学校時の不登校が原因で四則計算（足し算、引き算、掛け算、割り算）から始めた生徒。
- ・これに対し事業としてそれぞれに成果は出せたかと思う。
- ・卒業生の具体的な課題としては、例えば1人の関してはここで学び続けたいというが、受け皿がないので、どうしたらよいかという所にある。また、もう1人の生徒は1度簿記3級の資格試験に挑戦したがわずかに点数が足りず、不合格になったので6月の試験にむけて頑張っている等があげられる。
- ・全体的な課題としては、他機関との連携が上手くいかなかったという感がある。
- ・行政とのコミュニケーションもあまり図れなかったのも反省点である。週2回、全体で102回の事業があり、日々の生徒の事で目一杯であったことが理由である。
- ・小学校時の不登校の生徒に関しては、少なくとも毎年200人以上の生徒が不登校の状態という現状がある。この生徒達が累積していくと、基礎学力が足りない方がどんどん大人になっていくという実態があるので、ここに関しては、教育委員会との連携も大事であると思う。
- ・今後は様々な機関と手を取り合っていけないと、この事業の目標が果たせないと思うので、行政の担当者を窓口として、今後は連絡をしながら、相談をして連携していきたいと思う。
- ・市の行政の中でも若者支援をどうやっていくかというマスタープラン（基本的な計画）というようなものがなかったことも問題点であった。このことで若者サポートステーションとの連携や位置付けが遅れてしまった感がある。
- ・今後お互いに月1回の連絡会などを開いていく予定であるが、他の市関連機関とも連携し、若者の支援をしていくことが重要だと考えている。

**質疑応答（○：審査会委員、□：実施者、■：事業担当課）**

- 来年の継続事業であるが、説明にあった市としてのマスタープランは出来つつあるのか。
- 昨年度から若者の自立支援協議会を立ち上げ、若者の支援体制というのを構築しつつある。これに基づいて関係する団体や、行政の各部署と連携をして取り組んでいく。位置付け等も明確にして支援を継続したい。
- 決算において予算が520万円に対して支出が380万円になっているが、市の負担は変わらないということは、NPOで使おうとしていた130万円を結果的に使わなかったという理解で良いか？
- 市の負担金は人件費に充てるという予定であった。事業実施においてのスタッフは3名ということで人員は変わらなかったが、残りの事業費（資料や特別講師の依頼）が少なくなったものである。参加人数が少なかったということで収入が減っていたので、その辺を切りつめながら、市の負担金は変わらず、事業費について削って実施したということである。
- 人が集まらなかったということだが、その原因は何だと考えるか？事業そのものに問題があったのか。
- 確かに参加人数の少なさがかなり大きな課題であると認識している。理由としては、所管している若者サポートステーションや、就職支援センター等との連携が密にとれていなかったということ。また広報などでも募集はしたが、もう少し局所的に関連団体や関連機関に集中的に周知をする必要があったと考えている。今年度については、中学校へも周知し、卒業後に不登校になってしまっている若者についても支援の手を広げていこうと動いている。

○若者サポートステーションにはそれなりに参加者が来ているということは、対象者は多いと思うがどうか？

■もちろん学びなおしを必要とする若者はいるかと思うが、費用がかかる部分もあり、必ずしも全員が受けるものではないこと、週3日間ということで家族のバックアップ必要等の理由があるといえる。

□費用がかかるということで協力を断られた機関もあった、市の協働事業としてやるので全体を見て協力いただけたらと思う。

No	事業の名称	実施者
9	森林再生活用事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人ふじの森のがるでんセンター</li> <li>・藤野経済観光課</li> </ul>

**概要説明（実施団体）**

- ・ 今回の協働事業は、私たちNPOの今までの活動をいかすという意味で展開されたものである。従来から自然に関する（里地里山の森林整備、農地の活用等）をやってきた。
- ・ 農地については、20年ほど前から市民農園を運営している。現在2丁反200区画の市民農園となっている。
- ・ 森林整備は従来から1丁5反の間伐、作業道路の建設等を行ってきた。
- ・ 今回の協働事業が我々の活動を更に発展させ、技術等を地域づくりやまちづくりにどう生かしていくかということについて、一番典型的に現れているのが景観伐採事業である。
- ・ 具体的には、日連山の山頂の景観伐採をした。この日連山は、ちょうど桂川と秋山川、相模湖が一望できるすばらしい所である。伐採の前は雑木林が生茂っておりこの景観が見ることができない状態であった。そこを作業道路の建設を含めて雑木林の間伐を行った。結果山頂からの景観、見渡しが良くなったと思っている。
- ・ その他に森林整備によって出た、間伐材をどう使っていくのかということがあった。これは体験学校とあわせて考えていった。
- ・ 体験学校は市内の高校生を対象に森林整備の重要性を知って目的で実施した。参加者は10名であった。
- ・ 間伐材の利用について、行政との合意では商品開発まで考えていたが、1年という活動期間では難しかった感がある。
- ・ 具体的に間伐材についての活用として、ログベンチ等を作ること、しいたけ栽培、薪ストーブ用の薪作成などを行い、今後の活動を進める一歩が踏み出せた。

**補足説明（事業担当課）**

- ・ 山の再生ということで、かつて材木は様々な用途に使われていましたが、輸入材の普及や後継者不足のため山が荒れる結果となっている。
- ・ 今回山の整備ということで当NPOと協働事業を実施した。今後も水源林の保全と残された貴重な自然を残していくためにも、山の再生は不可欠であると思う。今後も継続が必要な取り組みである。

**質疑応答（○：審査会委員、□：実施者、■：事業担当課）**

特にありませんでした。

No	事業の名称	実施者
10	市民活動PR事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人ナレッジ・リンク</li> <li>・市民協働推進課</li> </ul>

**概要説明（実施団体）**

- ・事業の概要としては、市民活動をわかりやすく伝えるPRビデオの作成を実施した。また合わせて若者の社会参加、市民活動への参加促進も事業の目的となっていた。
- ・市民活動PRビデオの作成は、1年を前・後期に分けて計4番組を制作した。内容としては活動の取材映像とスライドショーによる活動紹介となった。
- ・前期はおもちゃドクター、境川斜面緑地を守る会を取材した。作成した感想としては市民活動の多様性と素晴らしさを再認識する結果となった。
- ・後期は、幅広い市民活動の分野を周知する事がより効果的なPRになると考え、文化・芸術という分野から（女性ボーカルアンサンブルおときかく、エッキミュージックサロン）の2団体の取材をした。2団体ともに音楽をテーマとした活動で、特徴的な活動を展開していた。それぞれ違った面白みを感じられる映像に仕上がっていると思う。
- ・放映の場ということでは、今後図書館でのDVDのレンタルや公共のモニター放映など様々な媒体で周知を進めていく予定である。
- ・若者の社会体験の場の提供（若者の協議の調整）として、取材活動に同行して活動にも実際参加した若者の感想は一樣に「市民活動に興味を持った」という発言をしていた。実際にもその後参加者が継続して市民活動に取り組んでいる例もある。仕事以外の生活の域として、市民活動が、仕事を持つ若い世代に対し1つの魅力になるのではないかと考えている。
- ・協働をして良かったことは、事業の遂行に伴い、行政担当課職員の、かなりきめ細やかなサポートがありまして、スムーズに事業が進んだことである。
- ・また実際にこの事業を進めていく過程で他の団体との連携もあり、今後、私どもが若者を支援していく活動を実践する上で、つながりをもっていければと期待をしている。

**補足説明（事業担当課）**

- ・放映場所としては説明の中にあっただけのほか、今のところ家電量販店でも放映している。
- ・今後も多くの皆さんに見ていただけるように編集の長さなど工夫をしていきたい。
- ・継続事業として今年度も実施しますので、どこか放映させていただける場があれば市民協働推進課に知らせてほしい。

**質疑応答（○：審査会委員、□：実施者、■：事業担当課）**

○地域のケーブルテレビ局との連携はどうか？

□話し合いの中で、無償で放映するのは難しいということ、また番組の尺（長さ）などの問題がありました。昨年度の後期の映像に関しては長さを4分にするなども検討したが、長期的な考え方でいく必要もあり、基本的にはケーブルテレビ局のためにつくるというよりも、他の場所で流せるようにするという方針である。

○協働事業というより広報の事業という感があるがどうか？

■市の広報予算という、テレビ広報をイメージされているのかなと思う。違いとしてはこの事業は、市民（実際に活動している方、団体の方）の目線で選んで編集して撮影して作るということがあげられます。本年度はスタッフも若者から募集し活動に加わっていくという形で計画をしている。

□今回実施した事業は市民活動団体とのコーディネートと、実際に若者が市民活動に参加していくという意味で、「広報事業を映像会社委託する」ということとは違う内容になっていると思う。

## 7. 公開事業報告会の様子



### 公開での報告の場

平成20年度に採択され、平成21年度から取組んでいる10提案11事業について、事業の成果と協働の効果を検証する場として開催しました。また広く公開することで制度の透明性を高めるとともに、協働事業に対する理解を深める機会としています。



### 審査会委員による質疑

今回の報告会では、5名の審査会委員が出席し、事業の成果や効果、協働の有効性はあったか、経費は適切であったかという視点で質疑に臨んでいただきました。



### 実施団体と事業担当課による説明

協働事業提案制度では、実施団体だけではなく協働事業として実施していることから、報告の場面でも、双方の視点から事業の効果や成果について、説明が行われました。